



7月9日(火) クラスマッチ



編集発行  
愛媛県立八幡浜高等学校  
P T A 広 報 委 員 会

7月12日(金) 新川クリーン 作戦



..... 八幡浜高校芸術発表会 .....

八高サマーフェスタ 2019

6月15日(土)





### ソフトテニスと出会って

女子ソフトテニス部 西森由起子 保護者

高校最後の県総体。娘は残念ながら個人戦での出場はかないませんが、団体戦にてチーム一丸となり試合に挑みました。小雨が降る中で始まった一回戦松山商業に二対一で勝利。雨のせいかなかなか思うようなプレーができずミスショットも度々ありましたが、辛抱強くラリーを続け、なんとかこの試合に勝利することができました。続けて行われた二回戦は、新居浜西と対戦し、力的には五分五分といったところで、な進めたかつたのですが、結果は二対二で敗北してしまいました。



も楽しみでした。娘が最後まであきらめず、最後までプレーを頑張った姿を見て、私も涙が止まらなくなりました。試合中何度も涙がこぼれそうになります。ルーズボールに必死に飛びつく姿、悔しさに唇をかみしめる横顔。シュートが決まった時のこぼれる笑顔。ベンチで身を乗り出し、声をからして応援する姿。先生の話を聞く時の真剣な眼差し。子どもたちの一生懸命な姿を見る度に、じわっと涙が出てしまいます。もちろん、毎日の厳しい練習にも一生懸命取り組んでいます。ひたむきに頑張っているその先に、三人の三年生が描き、一、二年生が引き継いでくれた四国大会出場への夢がかなう日が来ることを信じています。



### 一生懸命

女子バスケットボール部 水口 志寿 保護者

熱心に御指導いただいた松本先生、心と体のケアをしていただいた上田さん、保護者の皆様、ありがとうございます。

三年生にとつて最後となる県総体が六月にありました。県総体での戦いということで選手達はもちろんですが、保護者である私もとても緊張していました。実は初めての総体での応援でした。一射一射に重みがあり、自分と戦いながら試合をしていることを改めて感じる事ができました。祈りながら一体となり応援しました。目標としていた四国大会出場は叶わなかったけれども、選手たちは自分の出せる力を十分発揮できたと思います。



### 総体を終えて

女子弓道部 源 静香 保護者

娘は高校入学前より弓道部に入りたいと言っていました。そして憧れの弓道部に入部しました。何も分からないところから、毎日基本を教える姿をみる事ができ、とてもうれしく思いました。子どもたちは苦しい時期もあつたと思いますが、目標に向かつて仲間とともに毎日コツコツと頑張ってきたと思います。これからの生活、人生においても色々な思いが育ち、集部で培った精神力、精

一年の時の総体では、緊張とプレッシャーで手が震え、思ったプレーができず、今年度の総体では「とにかく楽しんでやってくる!」と私に言って試合に臨んだ娘。その姿は、二年前が嘘のように頼もしく、成長を感じました。惜しくも四国大会は逃しましたが、最後まで粘り強く食らいつき堂々としたプレーで胸が熱くなりました。入部当初は、十一名だった部員数が、今年度は三名になってしまったことや、練習場だった第一体育館の取り壊しで十分な練習が難しかったり、様々な葛藤もあつたりしたと思いますが、今の自分達ができることを精一杯やってきました。結果です。そしてチームメイト、顧問の先生、保護者の皆さん、チームの皆さん、娘に力を貸してくれた方々に心より感謝申し上げます。



### 成長の証

女子卓球部 山中 徳代 保護者

神力が様々な場面に活かされたいと思います。これまでご指導くださった先生方、コーチ、先輩方、三年間本当にありがとうございました。

# 仲間と共に

男子テニス部  
保護者 宮武 里絵

土汚れない白い靴下を見  
ると、毎日部活で、真っ黒に  
土で汚して帰ってきた日々を  
思い出します。仲間と共に汗  
を流し、勝利に向かってひた  
すら練習。勝ちにこだわらず  
術面でも精神面でも大きく成  
長したように思えます。特に  
昨年の南予大会新人戦、目標  
にしていた団体戦優勝は、心  
が震えるようなとても素晴ら  
しい試合でした。走って粘っ  
てつないで得た勝利の高揚  
感、達成感は子どもたちへ大  
きな自信を与えてくれたた  
りよう。

そして、部活動最後の県総  
体。団体戦ではベスト8と、  
目標の四国大会にはあと一步  
のところまで届きませんでした  
が、最後まであきらめない胸  
熱くなるプレーを見せてくれ  
ました。夢叶わずとも、それ  
に果敢に挑戦し、勝ちにこだ  
わり全力を尽くした姿勢は、



本当に感動的でした。  
これまで熱心にご指導くだ  
さった先生方、温かく見守っ  
てくださった保護者の皆様、  
一緒に戦ってきた仲間のみな  
さん、本当にありがとうございました。  
子どもたちと共に  
夢を追いかけ楽しい時を過ご  
せたことにも感謝の気持ちで  
いっぱいです。  
「部活終わって寂しい?」  
「やりきったからそうでも  
ないよ!」  
その言葉に後悔はなく、す  
でに次の一步を踏み出してい  
ると感じ、親としての嬉しく思  
いました。これからの更なる  
チームのご活躍を心から応援  
しております。

## 親も青春

男子バレー部  
保護者 山内 智子

昨年四国大会の舞台を踏ま  
せてもらい、三年生引退後、  
張り切っていた息子。それも  
束の間、まさかの腰の疲労骨  
折で、三か月の安静を言い渡  
されました。総体に間に合う  
のか。そんな不安がよぎる  
中、コートの外でチームを見  
守ってききました。幸い三か月  
後にはなんとか復帰し、総体  
にはチームも応援も一丸とな  
り、戦うことができました。  
残念ながら、四国大会の切符  
は手に入れたが、今回はできま  
せんでしたが、清々しく終える  
ことができたと思います。  
思えば、一球一球に、ドキ  
ドキしたり喜んだり。試合

となれば朝から共に準備をし  
て、私たち親も、子どもたち  
と同じように青春させ  
てもらいま  
した。  
男子バ  
レー部に関  
わってくだ  
さったすべ  
ての方に感  
謝の気持ち  
です。あり  
がとうござ  
りました。

## ありがとう

男子弓道部  
保護者 木嶋 英幸

四人兄弟の末っ子で上に比  
べて比較的静かに育ち、中学  
校までは少人数の卓球部、八  
高の中でも大所帯の弓道部を  
選択したのが未だに分からな  
い。ただ大学時代アーチェ  
リーをしていて自分にとって  
和弓と洋弓の違いはあれど  
も、弓つながらりで密かに喜ん  
でいたことを思い出す。和弓  
は全くの無知であるが少しど  
も自分の経験を伝えようとト  
レーニング方法やメンタル面  
等話を話してみたら、どうも通  
じる所があまりなかったよう  
である。二年半ほとんど練習  
も試合も見ることがないので  
ある。一度だけ、災害のため  
JRが不通で宇和島にあつた



大会に道具運びの依頼があつ  
た。なぜか嬉しかったが、こ  
れが最初で最後である。御  
指導頂いた方達も面識がなく  
挨拶も御礼も言えないまま終  
わってしまった。父兄同士の  
交流もなく顧問も知らない、  
どうにかして弓道部のパッ  
クアップをする方法を自問自  
答したが結果が出ずに終わっ  
た。残念であり情けない。そ  
のため、原稿依頼が来た時  
に何を書けばいいのかわ当が  
つかず、愚痴めいた事ばかり  
になってしまい誠に申し訳な  
い。ただ子どもが黙々と草引  
きをしたり、大所帯を任せて  
頂いたり、礼儀作法を重んじ  
る弓道部で高校生活を送るこ  
とができたことは、必ずや彼  
の将来に役立つと信じてい  
る。改めて御指導頂いた先生  
コーチに感  
謝申し上げます。部員  
のみんな、  
保護者関係  
者の皆さん  
が本当にあり  
がとうござ  
りました。  
八高弓道部  
は永遠に不  
滅です。感  
謝!!



## 繫

野球部  
保護者 清水 洋二

春の県大会において、昨秋  
の大会で敗れた聖カタリナを

撃破し、勢いのつて、準備  
勝を飾った野球部は、夏の選  
手権大会を第四シードとして  
戦えることになりました。大  
会が近づくと、期待や心  
援の声をたくさん頂き、選手  
たちも、保護者も甲子園が手  
に届くところまで来たと思っ  
ていました。  
そして、雨の中の開会式で  
スタートした夏の大会は、初  
戦をコールドで勝ち、三回戦  
の小松高校と対戦しました。  
この試合は、劣勢を跳ね返せ  
ず、悔しい敗戦となつてしま  
いました。  
野球部に入部してから二年  
半、息子は勉強と部活の両立  
に苦心しながら、甲子園に  
向かって努力してきました。  
キャプテンになってからは、  
思い悩み、壁にぶつかる姿を  
幾度となく見てきました。こ  
の経験はこれから的人生に  
おいて貴重  
な財産にな  
ると思いま  
す。  
最後に、  
息子に関  
わってくだ  
さった皆様  
のおかげで  
今の彼、そ  
して将来の  
彼がある  
と思つて  
います。  
ありがとうございます。  
ございま  
す。



# 「感動！八幡浜高校体育祭」

聖流ブロック保護者 楠井あゆみ

令和元年九月七日、「導（しるべ）」― 一步先の未来へ―のテーマの下、各ブロックが英知を結集し一致団結した、令和初の体育祭が、八幡浜高校で開催されました。

息子が率いる聖流ブロックは、三年生が一クラスしかおらず、準備等が大変で、女子生徒を中心に、担当以外の生徒も参加し、応援衣装や腕章を作ったそうです。また、体育祭前の一週間は、息子の携帯に打ち合わせや相談の連絡が頻繁にあり、みんなが熱心に作り上げている様子が伝わってきました。

そして、当日。まず目に飛び込んできたのは、三ブロックの迫力ある装飾です。聖流の装飾は、悠々と泳ぐくじらと少女の描写が美しく、色とりどりの小魚を配置するなど、細部まで工夫されておき、とても素敵でした。また、「家族愛」をテーマにした仮装もよかったです。流した英会話の和訳を大きく書いて見せたり、ニュースをよく目にしたあたり運動のガラケーを持った女性役が悪役の中にいたり、演出もとてもユニークでした。応援も印象に残る動きや掛け声を取り入れ、全員の動きが一つに重なった力みなぎる演舞で、感動しました。競技も、躍動感にあふれ、見応えのあるものばかりでした。結果は、装飾一位、仮装一位、応援三位、競技は最後に逆転され僅差の二位となりましたが、聖流ブロックは総合優勝を果たし

ました。三年生二クラスの聖流ブロックの優勝は、想像以上の結果で、喜びもひとしおだったようです。それ以上に、体育祭に向けてみんなが一丸となり、最後まで成し遂げることができたということこそが、一步先の未来への「導」になったと思います。最後になりましたが、日々ご指導いただきました先生方、ご協力、応援していただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。



# 「令和をつくれ！八高パワー」

柏皇ブロック保護者 下田 美紀

左に真っ赤に燃えあがる炎。右には悠々と泳ぐクジラ、そして中央には今にも飛び出してくるほどの勢いで、花ふぶぎの中を駆ける般若。ああ、また今年もこの日がやってきたと、興奮が湧き出てくるのを感じました。新しい令和の時代に、初めての記念すべき体育祭。しかも、わが子は柏皇ブロック長として、団旗をはためかせて、先頭で入場してきました。感動を覚えるとともに、周りの仲間への感謝の気持ちでいっぱいになりました。鬼北町からたった一人で、入学してから、二年と数カ月。部活に明け暮れ、学業はどこに行つたのかという息子に、これだけ沢山の仲間がいて、心一つに体育祭を作り上げようとしていることに、何事にも替えがたい高校生活の集大成を見ることができました。

前年度の輝かしい成績に、プレッシャーもある中でしたが、伸び伸びと自分達らしく躍動する姿が演技全体に溢れていました。仮装では、笑いの洪水を、終わりが良ければ全てよしとかわいダンスで締めくくり、応援では、一糸乱れぬシンククと気迫で圧倒し、一瞬たりとも目を離せない感動の体育祭でした。人間は社会的動物で、社会を離れて存在しない。その意味で人間は社会を作り、社会によって作られる。」と、零戦のパイロットとして先の大戦を経験された梅林義輝元校長先生は言われた

す。この体育祭の成功を通して、脈々と八高の先輩方が育んだ歴史と伝統と平和の上に、今の高校生活があるのだということに再認識しました。そして、この令和の時代に平和な社会を築けるように、是非この体育祭で培った八高パワーを、これからの学校生活や将来に生かしていただきたいと思います。ご協力いただいた全ての皆さまに、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



# 「体育祭への思い」

八翔ブロック保護者 田中 里枝

九月七日、令和になって初めての体育祭が行われました。その記念すべき年に八翔のブロック長を任せられたのは我が息子。みんなをまとめる力、責任感が問われる大変な役をいただいたと心配しながら当日を迎えました。

まず、三ブロックの装飾の迫力、鮮やかな色使いに目を奪われました。その素晴らしい作品を背景にファンファーレと共に体育祭が始まりました。

次々と行われる競技も笑顔で、時には真剣な表情で練習の成果をいかんなく発揮し、観客席からも大きな声援が沸き上がりました。特にリレーでは、私も年甲斐もなく興奮し、叫んでしまいました。

途中、雨が降り出し一時中断となり昨年のどろんこ祭の事が頭をよぎりましたが、PTA競技の力だけで全競技を無事に終えることができました。

応援に出る息子は、応援団長を中心に早朝から放課後と練習に励み、家に帰ってから動画のチェックをするなど一生懸命でみた。本番ではその甲斐あつとまったすばらしい演技を見せしてくれました。みんなのやりきった表情がとても印象的でした。

過去二年間無冠だった息子は、ブロック長として今年こそはという思いがありました。プ

ロックの仲間を支えられ、協力してもらいながら一致団結して得た今回の結果は満足げで宣言通りの「笑顔あり、涙なし、思い出でいっぱい」の体育祭になりました。最後になりましたが、ご指導いただきました先生方、ご協力いただきました皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



PTA理事

Table with 2 columns: 地区名, 氏名. Lists PTA council members by district.

Table with 2 columns: 地区名, 氏名. Lists PTA council members by district.

(敬称略)

令和元年度 Parent・Teacher・Association 役員

Table with 3 columns: 役職, 氏名, 地区名. Lists PTA executive officers.

5月15日(水) センチュリーホテルにて PTA理事会 (専門委員会)



宇都宮会長を中心とした三役8名と各地区より選出された29名の理事、先生方で5つの専門委員会を組織しています。

子どもたちが充実した八高生活を送ることができるよう、各種研修や行事を計画しています。保護者全員がPTA会員です。文化祭も近づいています。子どもたちと一緒に八高生活を楽しみましょう。ぜひ御参加ください。1年間よろしくお願ひします。

PTA専門委員会より

5月15日(水)にPTA理事会、専門委員会が行なわれました。委員会ごとに分かれ、委員長、副委員長の選出後、今年度の活動について話し合いました。

校外生活指導委員会では、生徒への元気な挨拶も心掛けています。



委員長 西村 雅美 副委員長 上甲 弘

校外生活指導委員会

本校の校外生活指導委員会では、生徒への元気な挨拶も心掛けています。

おまの御願ひです。

研修・人権教育委員会では、去る八月三日に先生方、保護者



委員長 林 善法 副委員長 佐々木真哉

研修・人権教育委員会

いかにしようか。

説明を受け、担当職員の方から

### 厚生保健委員会



委員長 菊池 幸恵  
副委員長 田中 義春

今年度も2/13に学校保健委員会を実施予定。安全面や利用状況についての意見交換も行う。理事会資料1ページの活動目標の2が厚生保健委員会の活動内容とあっていないように思われるので、「安全についての研修を行い、理解と促進に努める。」という目標にしてはどうかという提案があり、了承された。

厚生保健委員会の活動目標は、これまで、①「生徒の健康保持と増進を図る。」②「一部活動について理解と指導に努める。」という二点挙げられていたが、②の目標が「現行の委員会活動にはそぐわない」との意見があり、理事会の承認を得て、今年度から②の目標を「安全についての研修を行い、理解と促進に努める。」という内容に修正いたしました。一年間の目標で活動を行いたいという

### 学年委員会



委員長 菊池 幸恵  
副委員長 田中 義春

6/22のPTA親睦ソフトバレーボール大会の前に講演会を実施したい。今年度は、「入試改革に備え、家庭でできる対策」について講演をお願いしている。後日文書にて案内する予定。

学年委員会では毎年、PTA親睦ソフトバレーボール大会の前に行われる講演会を開催しています。専門委員会では、保護者の方の関心のある内容の講演会を行

思います。具体的な活動としては、今年度同様二月の学校保健委員会での保健室の使用状況の報告(安全面や衛生面について)の意見交換(含む)と生徒による保健委員会活動報告です。昨年度は、生徒さん自身による朝食についての研究発表で、朝食が自分たちの身体や勉強に与える影響を数値に表して分析し、その重要性を訴えました。保護者としても大変興味深く、また、朝食の重要性を再認識させられた話題でもありました。その他、厚生保健委員会では年間を通じて、生徒の健康や安全について、情報提供の窓口となることになっていきます。お気づきのことがありましたら、いつでも厚生保健委員会へお知らせください。健康保持や安全な学校生活につなげていきたいと思

### 広報委員会



委員長 泉 正人  
副委員長 山脇 功

年2回のPTA会報発行に加えて、6月に教職員の紹介をする号外を発行する。原稿の依頼に協力を願いたい。5/28に第2回広報委員会を行う。

広報委員会では、PTA活動に対する会相互の理解を深めるとともに、『八高PTA会報』を発行しています。六月に発行した号外には、先生方の「マイブーム」を紹介することができ、より一層親しみが知れるようになっていきました。五月二十八日に委員会を開き、第七十三号の内容について検討しました。掲載内容を決め、それに伴う原稿執筆への依頼を行いました。依頼に対し、どの保護者も快諾してくださりました。おかげで充実した内容に仕上がりました。ありがとうございます。

これからは、会員が楽しめるような会報を発行していきたいと思っております。原稿執筆にはご負担をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いたします。なお、第七十三号は三月に発行する予定です。

### PTA親睦ソフトバレー大会

愛宕 福岡 勝也

八高体育館に、律儀か暇かお誘いを上手に断れなかったかの親&学校職員陣が六月二十二日に結集。ユニホームに膝サポーターの如何にも日ごろからやっていますと言わんばかりのプロ集団もいれば、挙動不審な如何にもチームの穴的存在になりうる逸材も交じる。参加の心意気の温度差がまちまちのチームが一つとなり、優勝賞品のビール&歯医者さんが選んだ特選歯ブラシを目指して戦うのはなかなか乙である。それはバレーの技術の戦いというよりも、チームワークの戦いである。地域別に八代・真穴・松柏連合、愛宕・保内、瀬戸・三瓶・宇和連合、教員の五チームの激突の末、我が愛宕チームは全勝優勝した。優勝賞品とともにこの原稿依頼が手渡された。なかなか素晴らしい段取りに苦笑したが、伝統ある広報委員会が毎回質の高い広報を生み出している所だ。準備してくださった学級委員会の皆さんありがとうございます。そして一緒に戦ったチームの皆さん、親睦の楽しさに加え、優勝を共に手にできた幸せをありがとう！

**文化祭バザーにご協力を!**

今年の八高文化祭は、11月2日(土)です。PTAもバザー出店します。メニューは焼きそばの予定です。保護者のみなさん、ぜひスタッフとしてご協力ください。よろしくお願いたします。




水 泳

水泳と向き合った三年間

三年二組 平田 美幸

八幡浜高校水泳部での目標は、「えひめ国体とインターハイで優勝すること」でした。一年生の時のえひめ国体は、たくさんの方の応援のおかげで、一〇〇mバタフライで優勝することができました。

えひめ国体が終わり、さらなる高みを目指すために、泳ぎの改善に取り組みました。特に、無駄な力を抜いて楽に速く泳げる泳ぎを作ることに重点を置き



ました。しかし、どんなに泳いでも上手いはず、二年生の頃には何もかもが分からなくなり、あれ程泳ぐことが好きだったのに、泳ぐことが嫌いになっていきました。今まで一番大きな壁にぶつかりました。

そんな私が泳ぎ続けてこられたのは、クラスメイトや部活動の仲間がいたからです。辛いことがあっても、学校に行けばたわいもない話と一緒に笑ったり、落ち込んでいると励ましてくれたり、たくさん仲間を支えられました。そのおかげで、気持ちの切り替えができ、今では、楽しんで泳ぐことができています。

今夏最後のインターハイは、「自己ベストで表彰台」が目標でした。えひめ国体以降で一番いい状態だったので自信はありましたが、表彰台までの百分の六秒差で五位と、とても悔しい結果になってしまいました。

八幡浜高校水泳部の三年間は、自分が思い描いていた水泳生活ではありませんでした。しかし、考えて実践し、また考えることで、真摯に



水泳に正面から向き合うことができ、技術だけでなく心を鍛えることができました。

私は高校卒業後も水泳を続けたいと、八幡浜高校卒業生の自覚と誇りを胸に、「オリーブピック出場」という夢を掲げ、結果で恩返しができるように努力を続けます。温かく見守ってくださった皆様、感謝の気持ちでいっぱいですが、本当にありがとうございます。

オープンキャンパス

劣等感から得たもの

一年四組 竹内 勇貴

私は京都大学のオープンキャンパスで多くのことを学び、感じました。最初は、「京都大学の講義を受けてみたい」という興味から参加しましたが、実際に受けてみて貴重な経験をたくさんさせていただきました。

講義の内容は、高校生が理解することは難しかったように思います。少なくとも、私は全く理解できませんでした。しかし、参加している人の中には歴史上の人物が何歳で亡くなったのかを正確に答えている人がいて、京都大学のあまりにも高い知識に劣等感を覚えました。

講義後には、研究室見学ができました。そこで、実験台となるねずみやゼブラフィッシュや研究の結



果をまとめたレポートを見ました。レポートには英語で書かれているものもあつたため、これからは英語は多用されていくのだろうなと思いました。レポートは日本語のものを見ること以外は全く理解できませんでした。

私は京都大学に行つて、すべての教科で培われたものは、受験だけでなく、将来の仕事や生活においても輝くものだと思います。しかし、私は薄々そのことに気付いているはずなのに、得意科目ばかり勉強することに満足して、苦手科目から目をそらしてしまいました。この経験を通して、苦手科目ともしっかり向き合つてどうしたらこの科目はさらに伸ばせるのか、どうしたら苦手を克服できるのかを考えていこうと思います。

オープンキャンパスの意義

二年三組 酒井 知輝

関西方面への、昨年に続き二回目のオープンキャンパスに。今回は、大阪大学薬学部に行かせていただきましたが、私の進路選択を大きく進歩させるものとなりました。私には、行きたい学部すら明確に決まっておらず、まず学部の選択に長い時間を要していました。学部ごとの特徴をよく知りたいと思ったのも、このオープンキャンパスへの参加を決意した一つの理由です。薬学部のキャンパスは、本部でこそなかったものの、大勢の学生の活気であふれていました。私のその日最大の目的であった研究室見学では、「毒性学」の研究室に入り、超高額な分離機や、安全医療について学びました。しかし、このオープンキャンパスで私が一番ためになったのは、学生相談コーナーです。薬学部の学生が忙しかったため、工学部の学生さんと話しをさせていただきました。



驚いたのは、その学生から工学部の学部の詳細について聞いたことです。このことは、私に新たな選択肢を増やしてくれました。その他にも学習のことで、学生生活について多く語っていただきました。実際に学生や教授と接することによって、大学のモチベーションを高めることができました。オープンキャンパスの意義は、大学を知ることだけでなく、大学を感じ、自分の勉強へのモチベーションを高めることでもあり、オープンキャンパスに行つた際は、相談コーナーに行くことをおすすめします。私、学部・大学選択を通して、さらに学習意欲を高めています。

得たもの

二年二組 竹田 好花

私は今回、神戸大学文学部のオープンキャンパスに参加してきました。まず、文学部全体の説明があり、その中には、大学生が話す時間があって、神戸大学を選んだ理由や大学での生活を赤裸々に語ってくれました。このような大学生の実際の体験談は、パンフレットなどからはなかなか得られない情報なので、貴重な時間だったことが、説明の中で衝撃的だったことです。インターネット上でももちろん、オープンキャンパスでも防犯のために公開されませんでした。

全体説明の後は、文学部の各専修の説明を聞きました。内容は専修によって様々で淡々と説明を聞くところもあれば、最後に一人一言

感想を言うところもありました。心理学専修や哲学専修の説明では、そもそも心理学とは、どのような学問なのかというところから教えてくださった方が、とても分かりやすかったです。

私は最初から神戸大学に興味があつたわけではなく、「せっかくな機会だから行つてみよう」という気持ちでこのオープンキャンパスに参加しました。しかし、説明を聞いた後、学内を見て回つたりするうちに魅力を感じて、こんなところで勉強してみたいと思うようになりました。まだ志望校は決められませんが、実際に大学に行くことが普段の勉強のモチベーションが上がつたし、今回の説明会で知り受け、とても有意義な時間を過ごすことができました。

編集後記

皆様のおかげです

〔広報委員長 泉 正人〕

今年の夏も暑かったです。そんな中、勉強や部活動、諸行事に生き生きと取り組む生徒たちの姿に元気をもらつた方も多かったのではないのでしょうか。

この度、PTA会報第七十三号を無事に発行することができました。早く原稿を執筆してくださいました皆様、編集作業にご尽力いただいた先生方や広報委員の皆様、そして、隅々まで読んでいただいた読者の皆様、本当にありがとうございます。

